

葉山町議会議長 伊東 圭介様

葉山町下山口(仮称)大濱宅地開発事業計画の見直しを促す 重要性の確認を求める陳情書

1. 陳情の趣旨

葉山町下山口 1972-1 において JR 西日本プロパティーズ株式会社が宅地 7 区画を造成する(仮称)大濱宅地開発事業計画は、最大 2.65 メートルの盛り土と 1.5 メートルの塀の敷設を伴うもので、災害リスクや居住環境の悪化が強く懸念されております。緑を活かし自然や景観の保全を図る地域まちづくりの活動を踏まえ、盛り土については現況地盤面からの変更を伴わない計画とし、塀については生垣もしくは網目に変更することなどを近隣住民は強く求めています。災害リスクや住環境の悪化を抑え、地域の人々の懸念を払拭することで、安全、安心、快適で文化的な暮らしを育むことが可能となるよう、事業者が地域住民と協議し、要望を踏まえ計画を見直すこと、また、そうした見直しに向け役場が積極的に事業者に対し指導・助言を行っていくことの重要性を確認することを求めます。

2. 理由

全国で未曾有の暴風雨が頻発し自然災害が激甚化する一方、斜面地崩落や土砂崩れによる死亡事故が近隣自治体でも今年に入り複数回発生し、葉山でもここ数年、これまでにない暴風雨被害が発生しております。令和元年 6 月 22 日に(仮称)大濱宅地開発事業計画に関する説明会がなされ、計画に対し、盛り土をゼロとすべきなど計画に反対意見が相次ぎました。令和元年第 4 回定例会において、貴議会で盛り土に対する近隣住民の不安を理解して頂くことを求める陳情を採択頂きました。令和 2 年 2 月 9 日開催された公聴会では公述人 5 名全員が計画への反対、見直しを求める意向を表明しました。令和 2 年 6 月 27 日に事業者により修正計画が提示されましたが、地域住民の意向を踏まえた実質的な修正とは受け取られておりません。災害リスクや居住環境の悪化の懸念や、長期的な管理責任などの課題が残ることから、宅地開発事業計画の見直しを強く促していくことが安全で安心できる住環境の確保には重要と考えますので、ご理解、ご支援をお願い申し上げます。

令和 2 年 9 月 2 日

